

1 来場者について

最終来場者数は、57万2千人と当初の想定を大幅に超えた。来場者の地域別割合は、県外33%、名古屋市内32%、名古屋市以外の県内35%と、県内外から来場し、県外からの来場者のうち50%は、首都圏・京阪神からの方であった。

国際美術展（主要4会場）及びキッズ・トリエンナーレでは、中学生以下の割合が14.3%と非常に高かった。

一日当たりの来場者数は、会期末に向かって増加しており、県内外のメディアで大きく取り上げられたことや、来場者からの口コミなどが大きく影響したと考えられる。

◆最終来場者数 572,023人

国際美術展	497,053人 (86.9%)	芸文センター147,821人、 市美術館 74,033人、長者町 85,709人 納屋橋 34,384人 名古屋城・名城公園 27,209人 オアシス 21 95,429人 中央広小路ビル 28,220人 七ツ寺共同スタジオ 4,248人
キッズ・トリエンナーレ	22,328人 (3.9%)	
パフォーミング・アーツ	17,038人 (3.0%)	ホール 11,813人 その他 5,225人
映像プログラム	3,128人 (0.5%)	
その他	2,329人 (0.4%)	シンポジウム、美術展作家講演会・ パフォーマンス等
共催事業	30,147人 (5.3%)	祝祭ウィーク 17,967人、 西京人 4,363人等
合計	572,023人 (100%)	

◆来場者の内訳

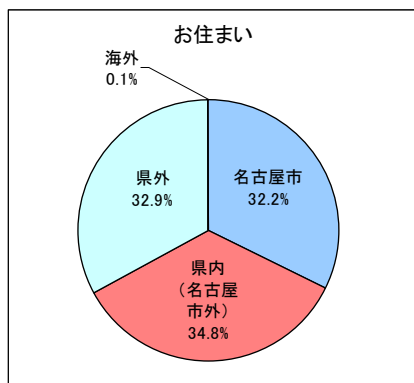
	愛知芸術文化センター	主要4会場合計※
一般	112,200人 (66.0%)	262,752人 (72.1%)
大学生	10,922人 (6.4%)	29,266人 (8.0%)
高校生	5,215人 (3.1%)	8,603人 (2.4%)
中学生以下	37,333人 (21.9%)	51,981人 (14.3%)
招待者	4,479人 (2.6%)	11,673人 (3.2%)
合計※※	170,149人 (100.0%)	364,275人 (100.0%)

※内訳をカウントした主要4会場（愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、長者町会場及び納屋橋会場）の合計

※※国際美術展及びキッズ・トリエンナーレを合計した人数

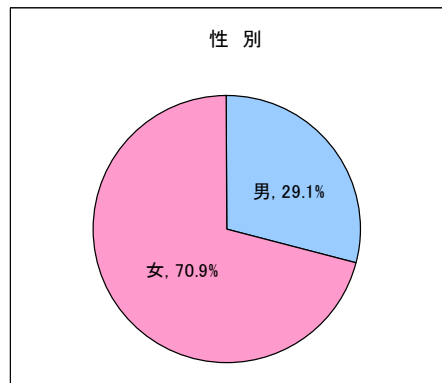
◆来場者の地域別割合

(アンケートより:回答数 3,308 人)



◆来場者の性別

(アンケートより:回答数 3,410 人)



◆来場者の地域別割合 (県外)

(アンケートより:回答数 1,087 人)

圏域	内訳	割合 (%)
首都圏	東京都	32.7
	神奈川県	
	埼玉県	
	千葉県	
京阪神	大阪府	17.4
	京都府	
	兵庫県	
東海	岐阜県	33.5
	三重県	
	静岡県	
計		83.6

※ほとんど全ての都道府県 (43都道府県) から来場。

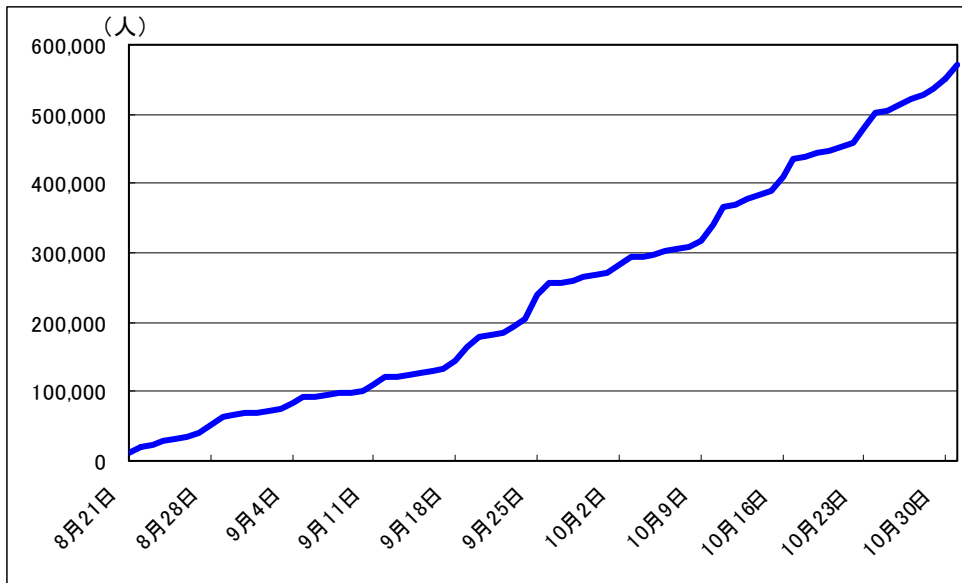
※割合は、合計人数を県外と回答した全体の人数 (1,087 人) で割ったもの。

◆来場者数の推移 (1日当たり平均の推移)

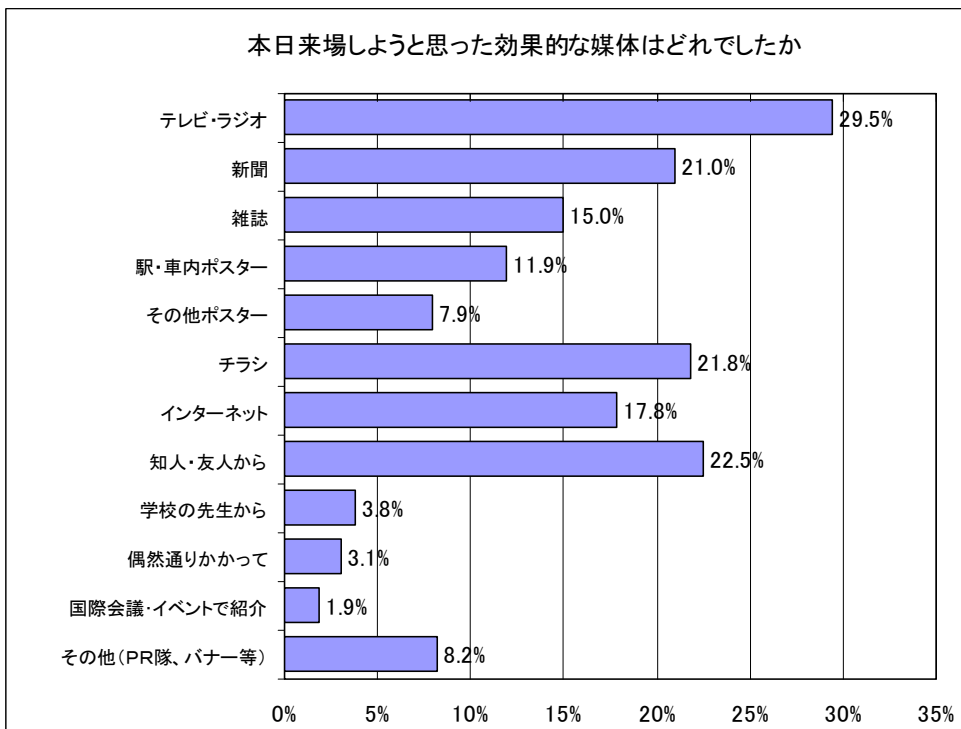
(人数)

	8/21~31	9/1~15	9/16~30	10/1~15	10/16~31
日平均	6,235	3,871	9,346	8,243	11,346
(土日祝)	10,847	9,328	17,705	16,074	20,084
(平日)	3,599	1,886	3,774	4,328	6,103

◆来場者数の推移（累計）



◆来場しようと思った効果的媒体（アンケートより：回答数 5,889、複数選択）



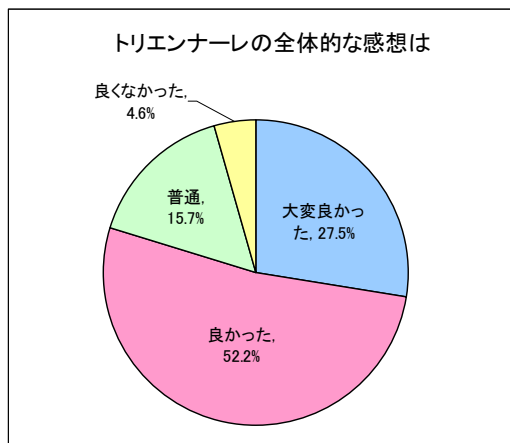
## 2 来場者の反応について

来場者の79.7%が「良かった」と回答し、76.6%が「次回のトリエンナーレにも行く」と回答している。また、子どもたちの86.6%が「楽しかった」、82.0%が「またトリエンナーレに来たい」と回答している。

### ◆一般来場者アンケート結果：最終回収数3,781人

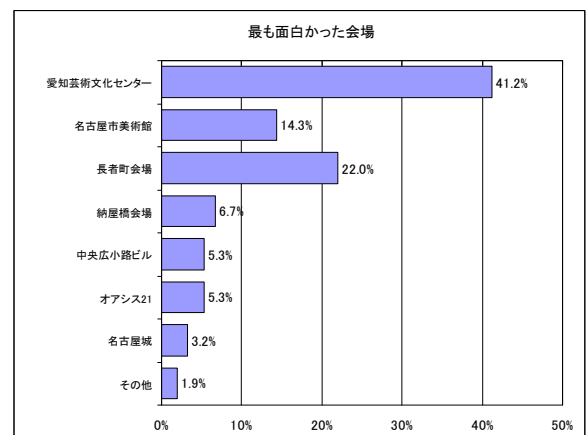
※カッコ内は回答数

#### 全体の感想 (3,581人)

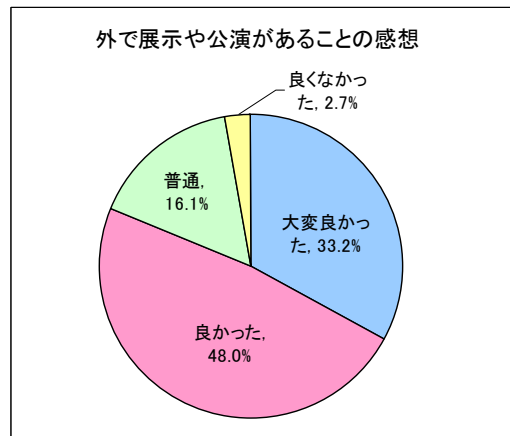


#### 最も面白かった会場 (4,847)

※複数回答

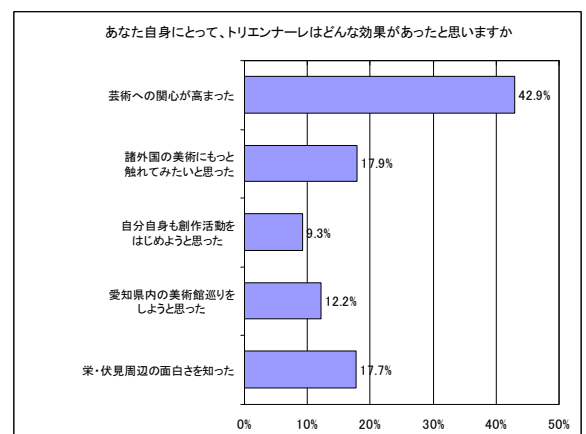


#### 美術館や劇場の外で展示や公演があることについて (3,452人)

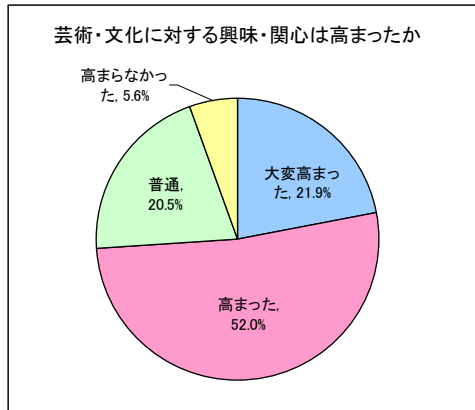


#### あいちトリエンナーレの効果

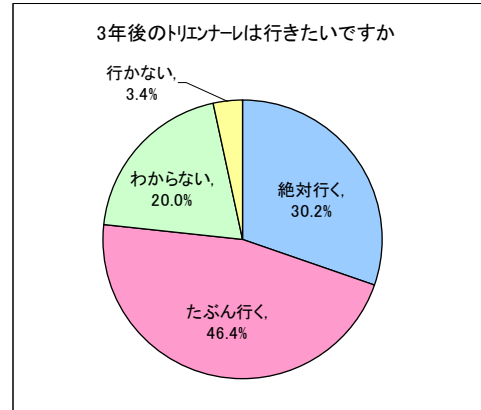
(5,271) ※複数回答



芸術・文化に対する興味・関心は高まったか (3,600人)



次回トリエンナーレに行きたいか (3,458人)



<コメント抜粋>

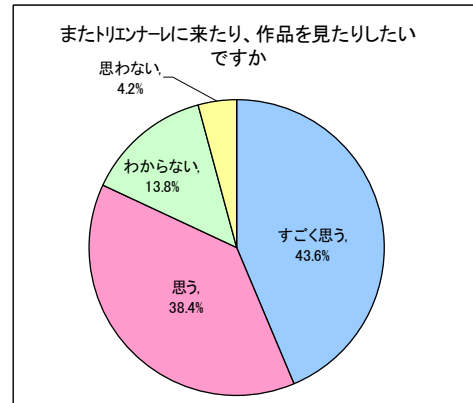
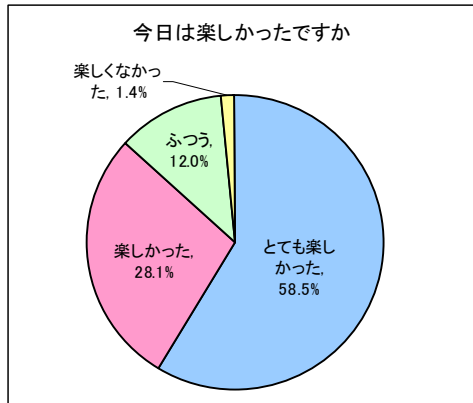
- ・身構えずアートが楽しめた。
- ・芸術が特別なものではなく、身近な存在であることを多くの人が感じたと思う。
- ・何気ない生活が、見方や切り取り方を少し変えればアートになることがわかった。
- ・街中でアート展示があると、何でもない風景にも目が行くようになり街が好きになる。
- ・新しい芸術はとても面白くて、子どもたちも美術館は楽しい所だと思ったようだ。
- ・アートが街や人に活力を与えるということを、改めて認識した。
- ・8月下旬に街中を歩き回るのは辛い。秋か春に開催してほしい。
- ・人と違ってもいいということ、それを表現してもいいのだということ子どもたちに伝えられた。
- ・ボランティアの方が老若男女活躍していたのが印象的だった。
- ・地域の住民や学生など、このようなイベントがあれば協力を惜しまない気質が分かった。

◆子ども（中学生以下）アンケート結果：最終調査数 1, 269 人

※カッコ内は回答数

今日は楽しかったか（1,262 人）

またトリエンナーレに来たり、  
作品を見たりしたいか（1,257 人）



<コメント抜粋>

- ・美術館はいつも疲れるけどトリエンナーレは疲れなかった。楽しかった。
- ・木でできた動物が面白かった。（三沢厚彦＋豊嶋秀樹の作品）
- ・文字が動く床がおもしろかった。文字が自分にうつるのがおもしろい。（曾建華（ツァン・キンワ）の作品）
- ・自分でも作ってみたいと思った。
- ・よく分からないものが多かった。
- ・芸術に興味はなかったけど、トリエンナーレに来てすごく興味が沸いた。
- ・いつも本で見る作品より、ここで見た作品は迫力があって面白かった。

### 3 普及・教育

国内初の取組であるキッズ・トリエンナーレには2万人を超える参加者があり、盛況であった。また、学校教育プログラムについても124校9千人を超える参加者があり、多くの子どもたちの来場につながった。

(キッズ・トリエンナーレ参加者数)

中学生以下	その他	合計
12,399人	9,929人	22,328人

(学校教育プログラム※参加者数)

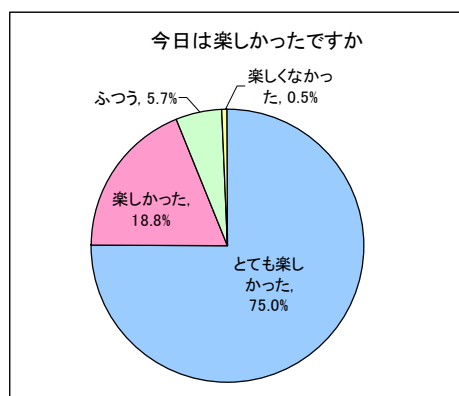
区分	校数	児童・生徒数 (人)	割合(校数) (%)	割合(人数) (%)
小学校	42	3,421	33.9	37.5
中学校	55	2,594	44.4	28.5
高等学校	20	2,970	16.1	32.6
特別支援学校	5	83	4.0	0.9
専門学校等	2	43	1.6	0.5
計	124	9,111	100.0	100.0

※学校教育プログラム：トリエンナーレの見所や現代アートの楽しみ方を伝えるガイドンスを行うとともに、鑑賞に際し、児童・生徒のヒントとなるワークシートを配布

#### ◆キッズトリエンナーレ参加者アンケート：最終調査数604人

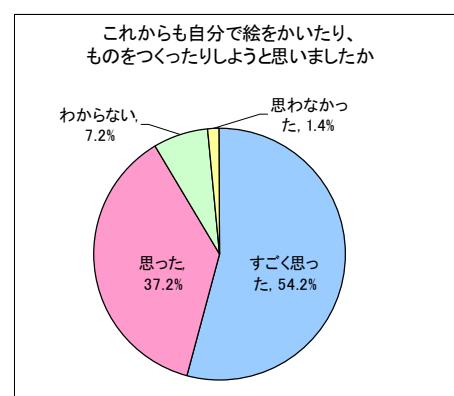
今日は楽しかったか

(回答総数 595 人)



これからも創作しようと思うか

(回答総数 594 人)



### <コメント抜粋>

- ・最初はこんなこと本当にやっていいの？と思ったけど、やってみると、すごく楽しかった。
- ・一人で知らない子どもと時を過ごすのは初めての体験。2時間泣かずに「楽しい」と言って参加できた事が、一番の経験になった。(保護者のご意見)
- ・スタッフの方に大変お世話になりました。楽しい雰囲気がありよかったです。
- ・とても楽しかった。お母さんに作品を見せたいです。